

2020年度春学期修士論文テーマ一覧

2020年度春学期において、修士論文を提出し、修了が認定された修了生について、氏名と研究テーマを以下に示します。

氏名: 小村 愛美

題目: 日本のデジタルアーカイブの継続性に与える要因の分析

—文化・学術機関のデジタルアーカイブを中心に—

梗概: 本研究においては、日本の文化・学術機関が運営するデジタルアーカイブを中心として、その継続性に影響を与える要因の分析を行う。1990年代から日本国内には多くのデジタルアーカイブが構築・公開されてきたが、長年にわたり運営を続けるデジタルアーカイブもあれば、消滅したものもある。両者の間に、何らかの違い、長く運営を継続できる要因はあるのか?より長く存続し、社会に文化資源を提供し続けるための要因を、本研究を通して明らかにしたい。国内のデジタルアーカイブを対象にURLのアクセス可否調査、アンケート調査を行い、また複数のインタビュー調査から、デジタルアーカイブの存続に影響を与えるいくつかの要因を明らかにした。

氏名: 赤瀬 章

題目: 「弱さ」の受容から生まれる自己変容プロセスの研究

—同志社ミツバチラボの実践を通じたオートエスノグラフィーによる分析—

梗概: 本研究は、生きづらさのメカニズムを解明し、どのようなプロセスを経れば自己に変容をもたらすことができるかを明らかにしたものである。すなわち人間が内包する弱さを否定する社会構造のあり様を自覚することが重要で、自己変容を促すためには、都市養蜂という人間以外の「生命」と関わりケアすることに有意性があることを明らかにした研究であ

る。自分自身を研究対象とし、オートエスノグラフィーという手法で研究を記述した。多くの研究スタイルとは少々異なるが、本研究には親和性の高いものである。しかし、過去の体験に付随する感情を追体験することは時にはきつい作業であり、同時に研究そのものが癒しをもたらすセラピーの機能を果たす場面もあった。研究がただの研究で終わらず、自己成長の場にもなったと言える。

氏名: 西浦 富美子

題目: 学校図書館における図書館システムの活用

梗概: 図書館管理システムに焦点を当て、アンケート調査等により学校図書館における図書館システム活用の現状を明らかにすると共に、高校生にとって望ましい機能とは何か・実際に要望はあるのかを探った。開発者へのインタビューによってそれらの機能の実現可能性についても検証している。現状調査では、近畿地方で最も学校図書館施策の差が大きいと考えられる2府県の公立校と私立校を合わせた3つの分析モデルの比較を行った。要望調査では、システム導入による各種メリットを媒介に新機能の有効性を判定する質問紙を作成し、生徒・司書による新機能への評価得点を算出した。要望には学校図書館の現状と授業内容が大きく影響していると考えられる。